ゆきふるふる

西内ミナミ 文
高杉克己 絵

ゆきふる　ゆきふる　ふるふるふる
ゆきふる　そらから　ふるふるふる

ゆきふる　ゆきふる　やまの　くまに
こぐまは　うまれたばかりで　ふゆごもり。

ゆきふる　ゆきふる　はやしの　りすに
りすは　どんぐりを　数えながら
いねむりしてる。

ゆきふる　ゆきふる　まきばの　こうしに
こうしは　まあるい目　またたいて
かあさんの　おちちの下に、じっと　たたずむ。

ゆきふる　ゆきふる
かもたち　みなもで　揺れている、ふわふわり。

ゆきふる　ゆきふる　やねに　ふる
やねは　すこしずつ　すこしずつ、
白髪をいただく。おじいさんのように。

ゆきふる　ゆきふる　家のにわに
土のした、チューリップや　ヒヤシンス、
球根たち　ねむっている。遠い　春を　まって。

ゆきふる　ゆきふる　いぬごやに
こいぬたち　秋の生まれで、いたずらざかり。
日暮れても、まだまだ　じゃれあそぶ。

ゆきふる　ゆきふる　子どもの　部屋に
子どもは　眠りについて、ゆめをみる。
夜のとばりに　つつまれて——

ゆきふる　ゆきふる　ふるふるふる
ゆきふる　そらから　ふるふるふる